

調査団体名	もりのいえ	団体代表者名	森本正則
設立年	2006年	団体URL	http://morinoie.shop-pro.jp/
活動地域	中津川市加子母	調査員	本田、杉野
取材日	2009/11/18	レポート作成者	本田義裕

## 「足るを知る暮らし」の実践と発信

### <活動内容>

1) 自然良品店 2) ネットショップ 3) 宿泊施設経営 4) イベント(ワークショップ)主催 5) 経営コンサルタント 6) 循環型地域づくり研究会 7) ウーフ(\*)受け入れ事業

1) 2) 徹底的に素材や製法を研究したものだけを売る。全国に多数の顧客を抱える。

3) もりのいえは古民家(築150年)を自ら手直した家で、農家民宿の形態をとる。旅館宿泊というよりも、友人宅へ遊びに行くような雰囲気です。料金も安い。

4) 農作業ワークショップ系、心のケアに関する講和会、コンサート主催など、多岐にわたってイベントを主催。主に名古屋からの参加者が多い。

5) 品質、環境、食品安全のマネジメントシステム審査員の資格を有し、全国を飛び回って講演。

6) 加子母地域における伝統を踏襲しつつ、新しい取り組み。

7) ウーフホストに登録されており、絶えず人の行き来がある。

\* ウーフ(WWOOF)・・・「食事・宿泊場所」と「力」を交換する仕組み。「食事・宿泊場所」を提供する側をホストといい、「力」を提供する側をウーファーという。

### <会のモットー(何を大切にしているか)>

自然に学び、自然体で暮らす循環型の暮らしの発信。足るを知る暮らし。山村に暮らす経営コンサルタント。

### <設立から現在に至るまでに変化したこと>

共感から共存へ変わった。始めた当初、お客様という見方だったのが、現在では家族という感覚に変化した。おそらく、自分たちの変化が波及したと思われる。自分たちが自然の恵みで暮らすということが伝えられた。

### <連携している団体・専門家・自治体など>

中津川市加子母地区

### <今までに行った調査・研究>

環境資源調査、てんぷら油を燃料とした自動車

### <現在直面している課題>

目標管理・時間管理・健康管理・行動管理のバランス

### <今後やってみたいこと>

加子母から発信することが、日本中の山村、日本全国、世界へと広がっていくようなこと。

豊かな心を持った暮らしの実践、共感、共存。ブログを通してその流れを実感している。(ブログタイトル:もりのいえ山暮らし日記)

### <そのためにはどんな情報・人脈が必要か>

行政に対して期待している。自然体で暮らしていれば、おのずと必要な情報が入り、人脈は広がる。

＜チームオリジナルの質問＞	
質問内容:	流域を良くするためには？
答え:	「ギブ&テイク」ではなく、「ギブ&ギブン」。見返りを求めないで、与え続けること。そうすれば流域全体が良くなる。時間はかかるかもしれないが、それが本来の流れ。人が豊かに幸せに暮らすには、何が必要なのか、考え行動していくことが流域を良くすることにつながる。
＜その他、伝えたいこと＞	
<p>独自の世界観を持った代表の森本氏の本業は経営コンサルタントであり、企業のISO管理などのコンサルタント業も行っている。独特の雰囲気、人を引きつける魅力のある人物。もりのいえは、自ら所有しているのではなく、みんな（お客様・ウーファー）と育てていくものという。パーマカルチャー、マクロビオティックなど、世間が注目することに何年も前から取り組んでいる。</p> <p>悟りを開いたお坊さんのような森本さんのファンは多い。特に、名古屋からやってくるお客さんが多く、驚かされる。木曾川流域における、人の流れが循環している実例。森本氏の田舎暮らしそのものを提供している宿であり、集会所であり、都会に住む人たちの癒しの場である。森本夫妻のモットーは「足るを知る暮らし」。必要な分だけを自然から頂くという姿勢で畑を耕し、自然に感謝する生活は、いわゆる「田舎暮らし」のお手本である。しっかりと地元根付き、加子母の風土を大切にしつつ、都会からやってくる客にストレスを与えない対応は素晴らしい。豊かさを履き違えてしまった今の世の中、もう一度原点に立ち返ることのできる癒しの場だ。</p>	
	
もりのいえ。ウーファーや訪問者	
	
森本氏と家族	
	
ネットショップ商品	
	
イベント参加	